

2 研究の全体構想

(1) 研究仮説の解明に向けて

研究仮説の解明のために授業研究を行い、全体研修として低・中・高学年の各部会から1回ずつ、授業提案を行う。その際、本年度の仮説の一つである「各学年段階に応じた思考力を系統的に明らかにする」ことに視点を置き、理科や生活科の実践を提案することとした。指導案については事前に検討会を設け、授業者の意図及び各部会の提案内容について話し合った上で研究授業に臨み、授業後検討会を行うことで、仮説の検証を進める方法をとった。

また、全体研修以外に、一人1授業を行い、公開する。研究の幅を広げるために教科は自由とし、指導案検討及び授業後の検討会は部会ごとに開くこととした。

限られた時間で研究を進めるため、組織を大きく低・中・高学年の各部会に分け、各部会を中心に授業研究を進めることとした。また、授業研究以外の取組みについても低・中・高学年の部会を中心として全体に投げかけながら推進した。

思考力の育成に向けては毎日の授業の積み重ねが大きい。二つ目の仮説である見取りや課題設定の工夫、ノート指導、発表の指導等については、各学級での実践を積み重ね、部会を中心に検討することで検証を進めた。

仮説を支える児童へのきめ細かな理解を進めるために、生徒指導上、学習指導上課題のある児童についての事例研究を各学期に1回程度行うとともに「様々な困難を感じている児童についての理解と対応」について地域特別支援教育コーディネータの訪問指導を受けた他、個別の教育支援計画についての研修を行った。

出張等で研修した内容等について確実に復伝し、情報を職員全体のものとするための機会を校内研修の時間内に確保するよう努めた。

(2) 研修計画

4 / 14	18年度の研修について	概略の説明
5 / 17	18年度の研修について	部会研修
6 / 7	事例研究	
6 / 14	指導案検討	
7 / 12	授業研究	4年2組 理科「とじこめた空気や水をおしてみよう」 1学期の反省
夏季休業中	学力テストの分析、検討、情報交換 地域特別支援教育コーディネータ訪問指導 広汎性発達障害のある児童への支援について 教材・教具の整理、確認作業 人材バンクの整備作業 パソコン研修 等	

9 / 27	事例研究	指導案検討
10 / 18	授業研究	指導案検討 5年1組 理科「てことつり合い」
11 / 8	授業研究	1年1組 生活科「あそびの出前大きくせん」
12 / 6	2学期の反省・研修のあゆみ作成について	
1 / 17	研修のあゆみの作成作業	
2 / 7	事例研究	個別の教育支援計画について
3 / 7	今年度の反省・次年度の研修に向けて	